

(株)東芝

# 東芝コンピュータリンク (SIO) ドライバ

- [1 システム構成](#)
- [2 結線図](#)
- [3 使用可能デバイス](#)
- [4 連続アドレスの最大データ数](#)
- [5 環境設定例](#)
- [6 接続機器設定](#)
- [7 ドライバ設定](#)
- [8 タイプ設定](#)
- [9 デバイスアドレス設定](#)

- このマニュアルでは、ターゲット機と各社接続機器との接続について説明しています。Pro-Designerの操作方法の詳細についてはオンラインヘルプを参照してください。
- 対応しているターゲット機の種類はPro-Designerのバージョンによって異なります。対応機種の詳細についてはPro-Designerのオンラインヘルプを参照してください。

## 1 システム構成

(株) 東芝製PLCとターゲット機を接続する場合のシステム構成を示します。

結線図は「2 [結線図](#)」を参照してください。

シリーズ	CPU	リンクI/F	通信方式	結線図
PROSEC Tシリーズ	T1	CPUモジュール上の プログラマポート	RS-232C	結線図1
		CU111	RS-485	結線図2
			RS-485 (1:n) <sup>1</sup> <sup>2</sup>	結線図3
	T1S	CPUモジュール上の プログラマポート	RS-232C	結線図1
		CU111	RS-485	結線図2
			RS-485 (1:n) <sup>1</sup>	結線図3
		CPUモジュール上の コンピュータリンクポート	RS-485	結線図4
			RS-485 (1:n) <sup>1</sup>	結線図5
	T2	CPUモジュール上の コンピュータリンクポート (PU224のみ)	RS-485	結線図6
			RS-485 (1:n) <sup>1</sup>	結線図7
	T2E	CPUモジュール上の プログラマポート	RS-232C	結線図8
		CM231E	RS-485	結線図9
		CM232E	RS-232C	結線図10
	T2N	CPUモジュール上の プログラマポート	RS-232C	結線図8
		CPUモジュール上の コンピュータリンクポート	RS-232C	結線図11
RS-485			結線図6	
RS-485 (1:n) <sup>1</sup>			結線図7	
T3 T3H	CPUモジュール上の コンピュータリンクポート	RS-485	結線図12	
		RS-485 (1:n) <sup>1</sup>	結線図13	

1 ターゲット機1台に対して、PLCは最高32台まで接続できます。

2 PLC本体がVer.1.1以降のバージョンで対応しています。

## 2 結線図

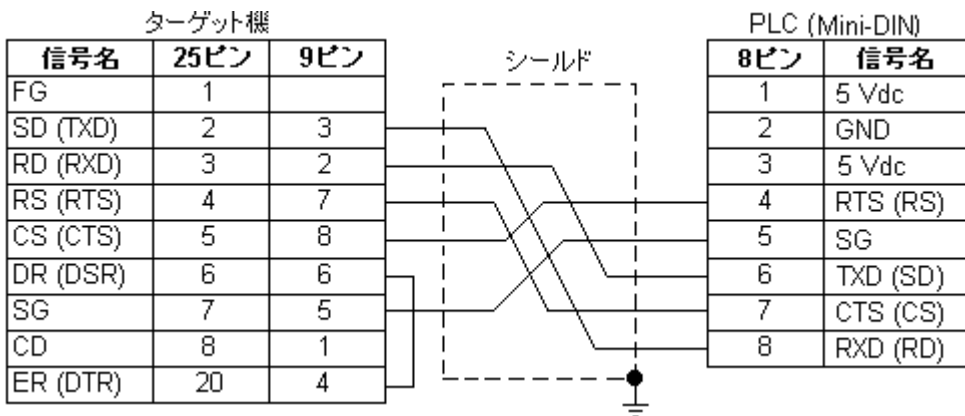
以下に示す結線図と(株)東芝の推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題はありせん。

- ・ PLC本体のFG端子はD種接地を行ってください。詳細はPLCのマニュアルを参照してください。
- ・ 通信ケーブルを結線する場合は、必ずSGを接続してください。

結線図1 RS-232C

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP, PS-P, PC/AT(PL), PS-G	(株)東芝製 RS-232CケーブルPT16S (2m) 自作ケーブル	ケーブル長は15m以内にして ください。



**MEMO**

PLC側の1番、2番、および3番ピンはRS-232C通信に使用されませんので、接続しないでください。

結線図2 RS-485

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用してPLCとターゲット機を接続します。

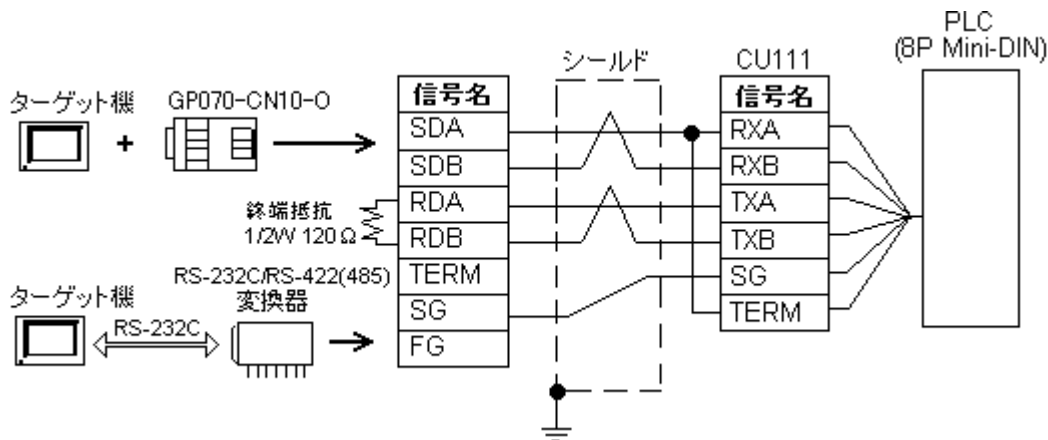
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b (株)デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS11-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペアー括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。

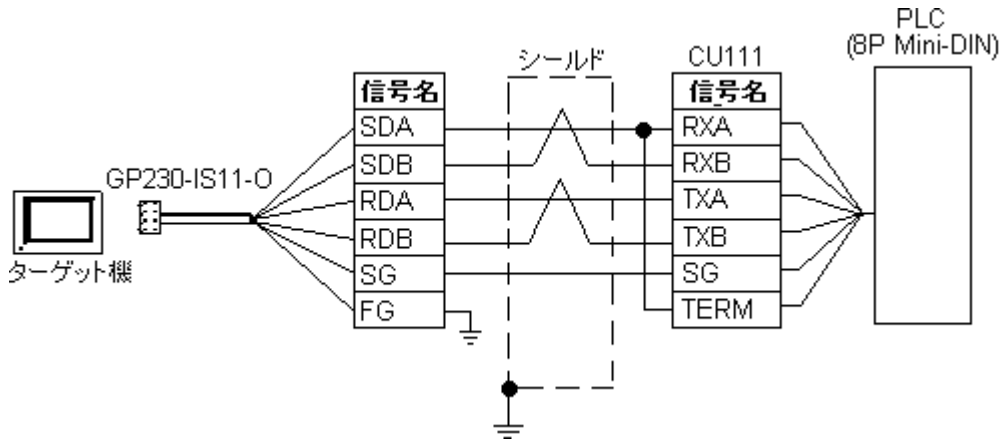
a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



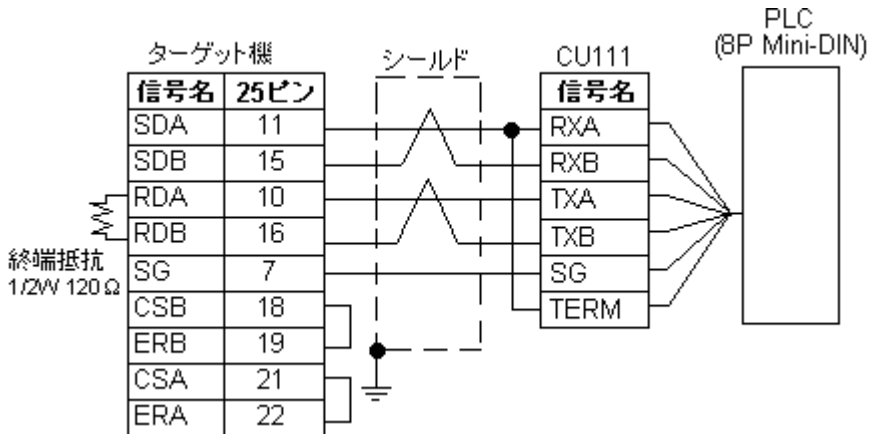
**MEMO**

- ・RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株) デジタル製RS-422ケーブル (GP230-IS11-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



結線図3 RS-485(1:n)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

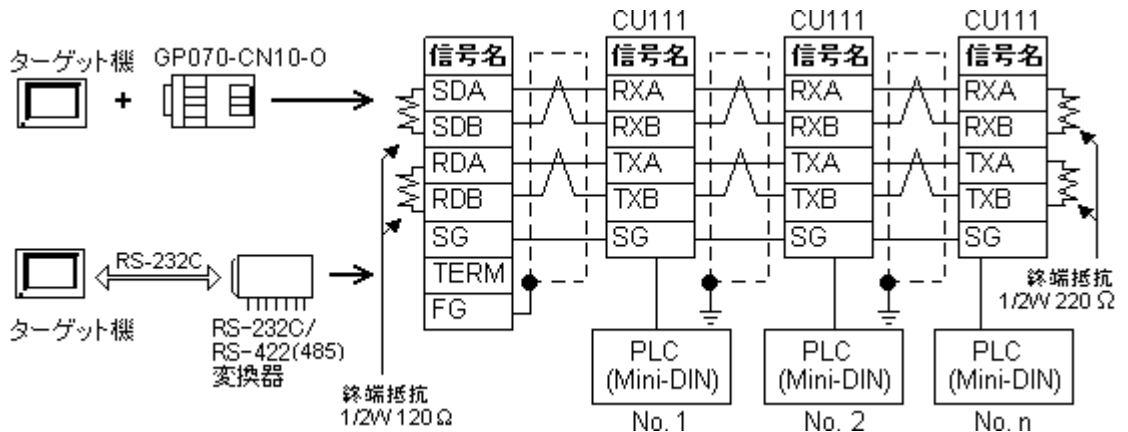
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

- ・伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・通常、マルチドロップ接続にT1SではCPUのコンピュータリンクポート(RS-485)を使用します。
- ・ターゲット機1台に対し、PLCを最高32台まで接続できます。

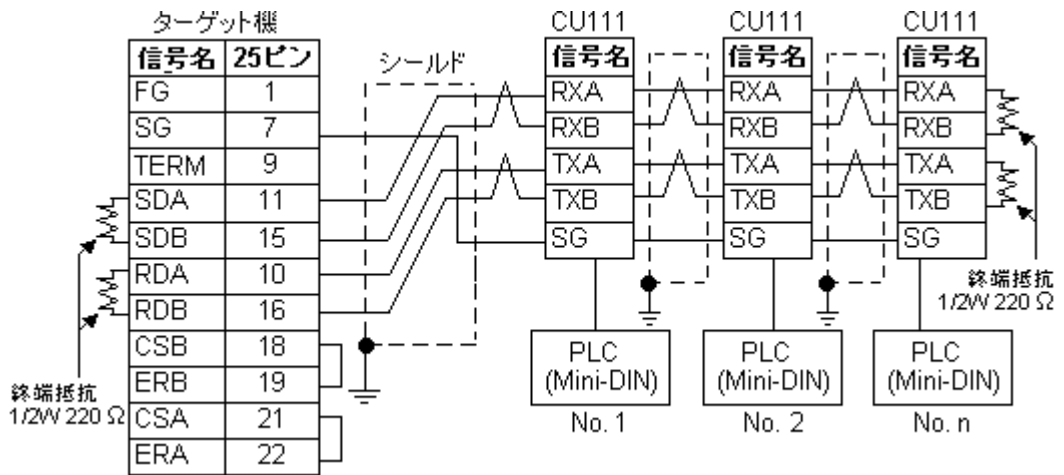
a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ(GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



**MEMO**

- ・RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. ケーブルを自作する場合



結線図4 RS-485

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

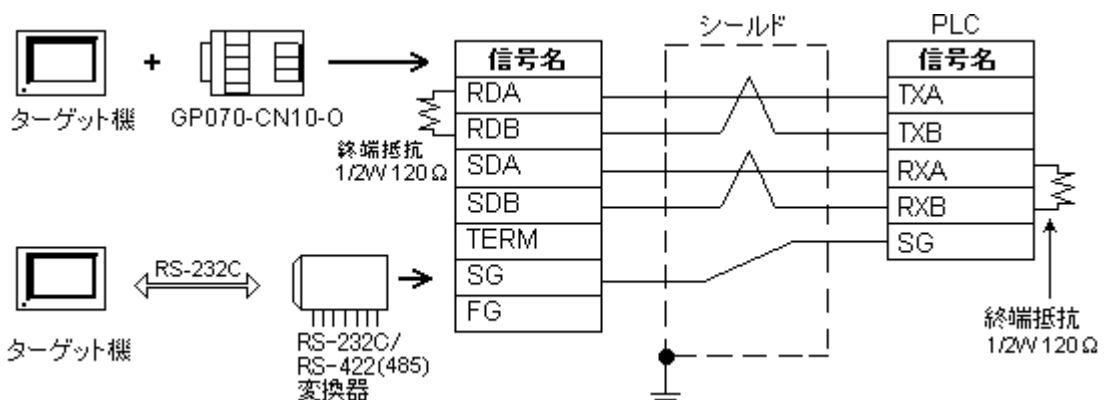
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。

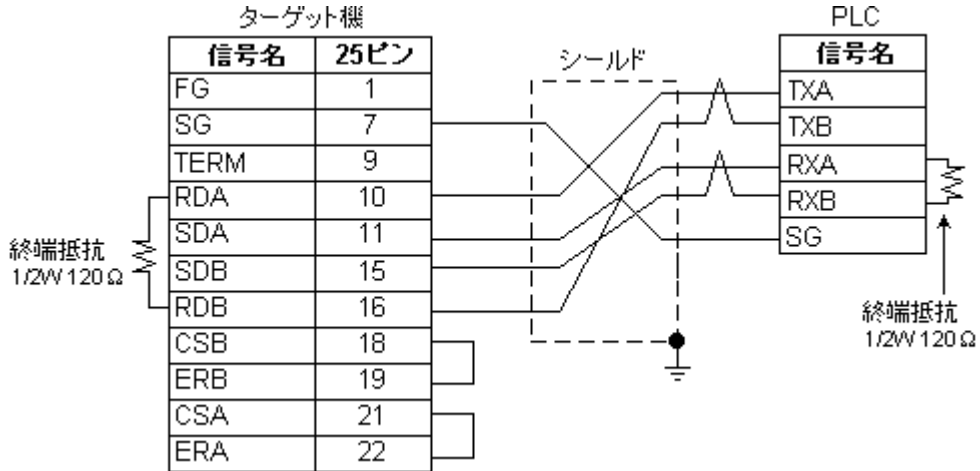
a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ(GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



**MEMO**

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. ケーブルを自作する場合



結線図5 RS-485(1:n)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

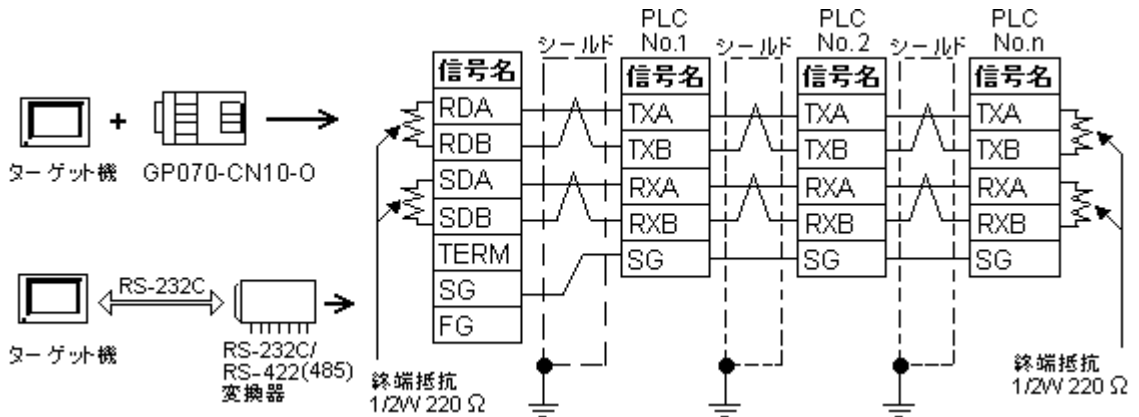
1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ ターゲット機1台に対し、PLCは最高32台まで接続できます。



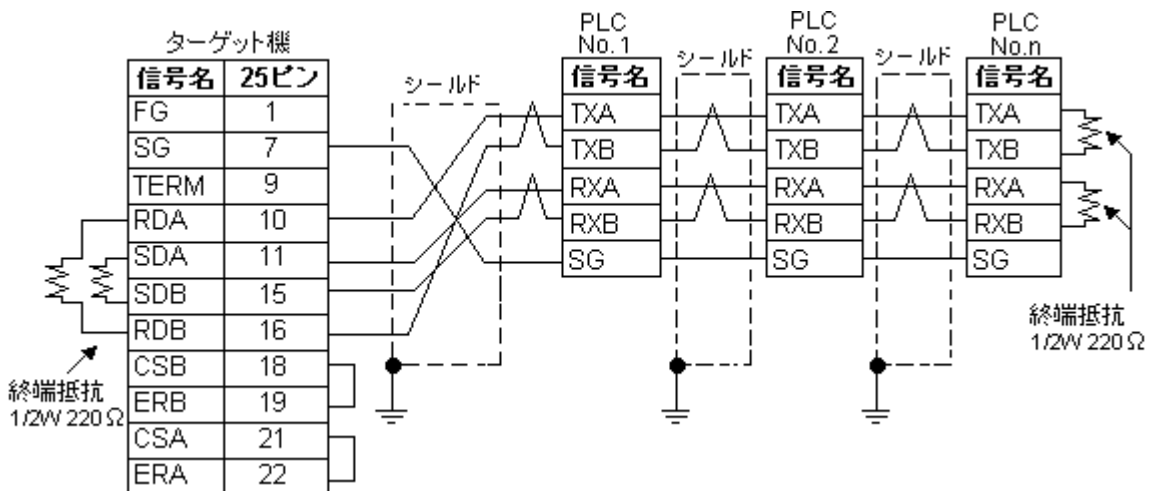
- a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ(GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



**MEMO**

- ・RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

- b. ケーブルを自作する場合



結線図6 RS-485

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作して PLCとターゲット機を接続します。

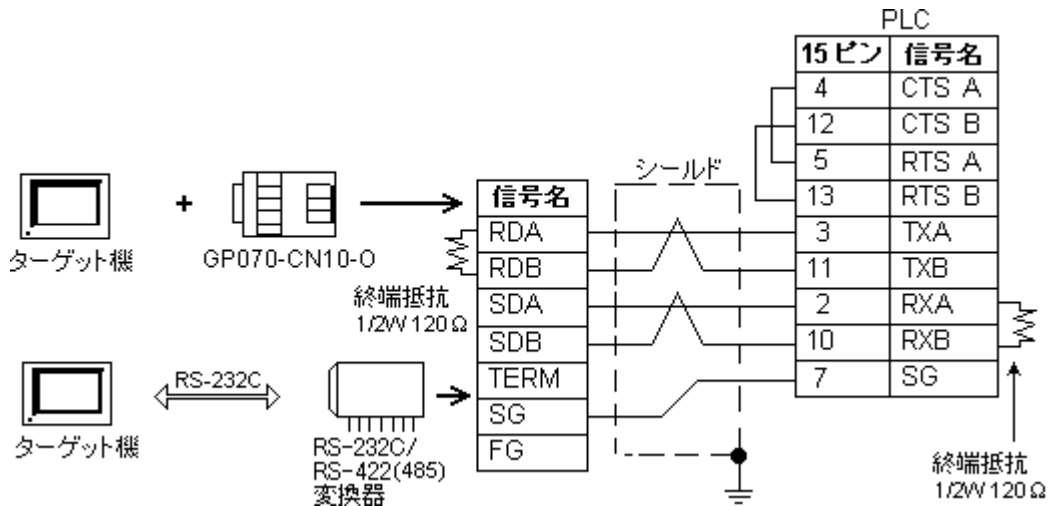
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a   (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内に してください。
	b   (株)デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS11-0	
	c   自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a   RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。

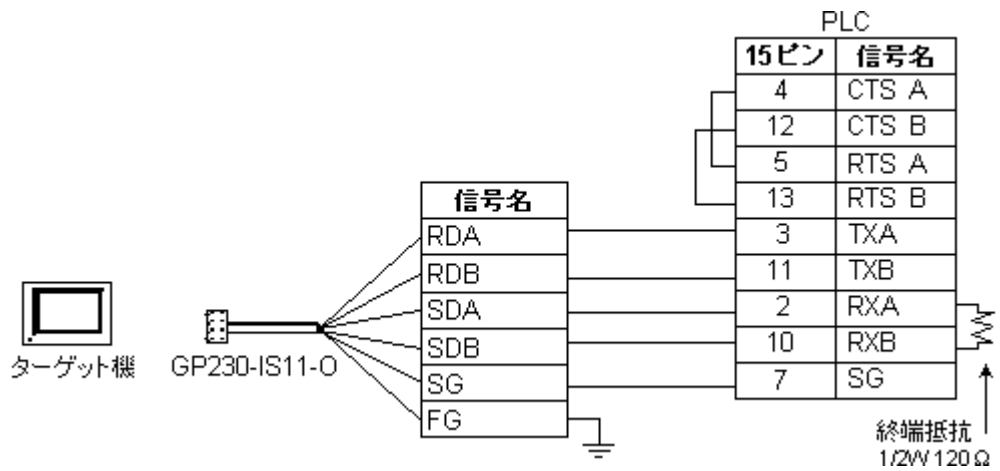
- a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ(GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



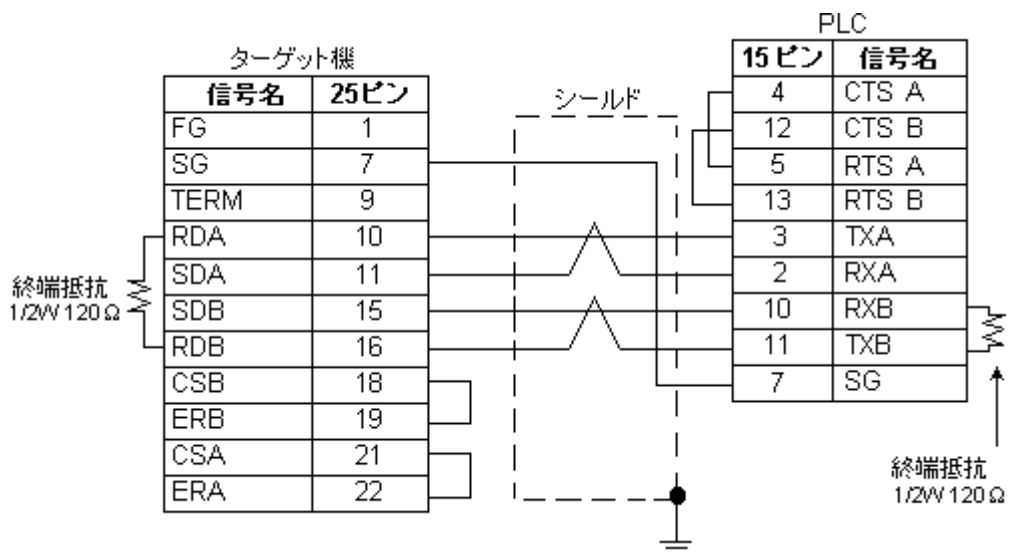
**MEMO**

- ・RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

- b. (株)デジタル製RS-422ケーブル(GP230-IS11-0)を使用する場合



- c. ケーブルを自作する場合



結線図7 RS-485(1:n)

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作して PLCとターゲット機を接続します。

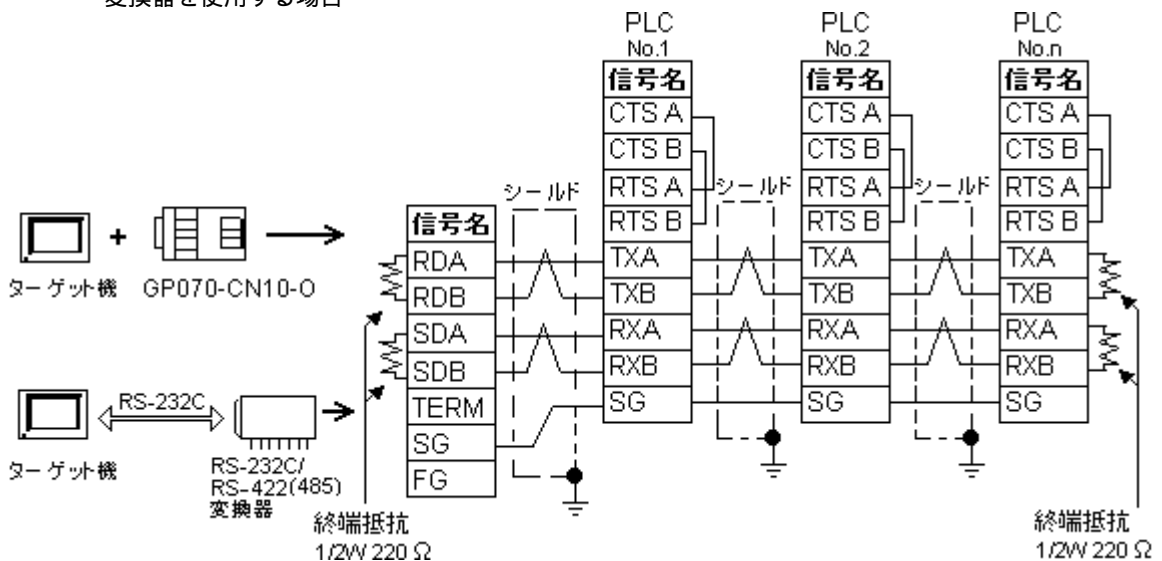
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a   (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b   自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a   RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。
- ・ ターゲット機1台に対し、PLCを最高32台まで接続できます。

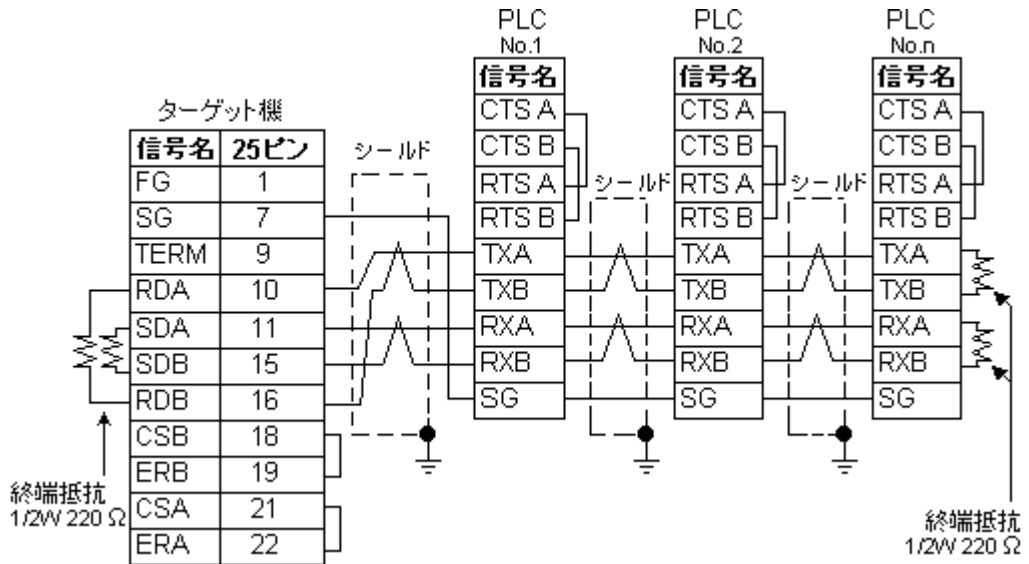
a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



**MEMO**

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

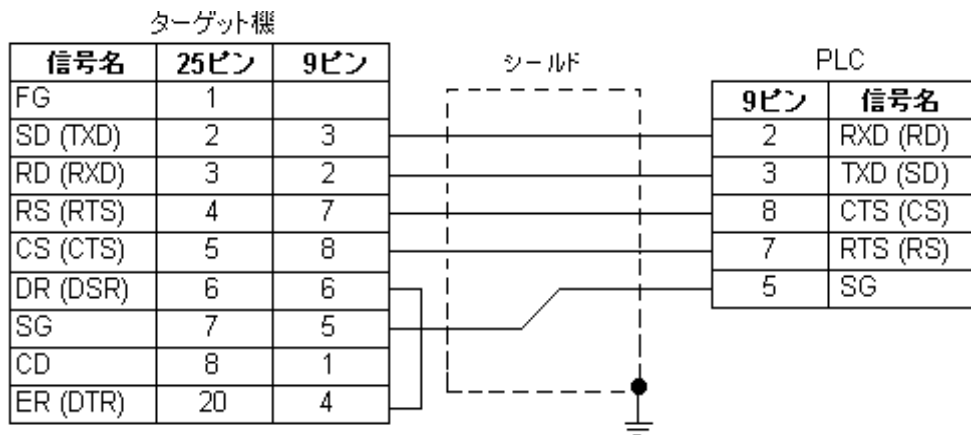
b. ケーブルを自作する場合



結線図8 RS-232C

ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP, PS-P, PC/AT(PL), PS-G	自作ケーブル	ケーブル長は15m以内にして ください。



結線図9 RS-485

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

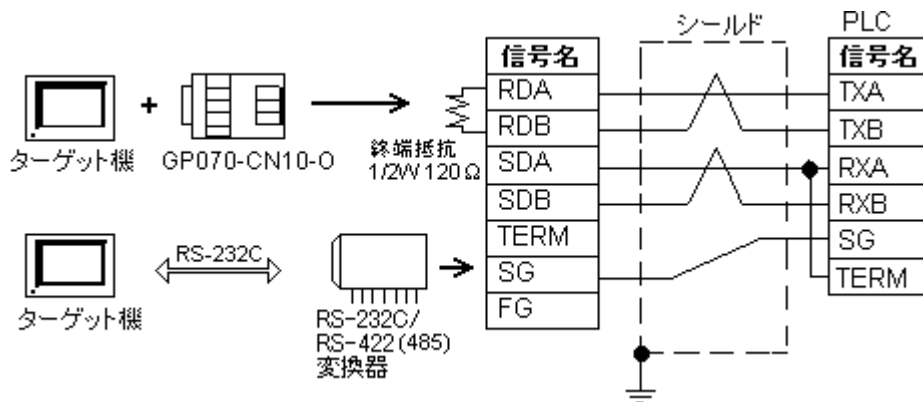
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b (株)デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS11-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。

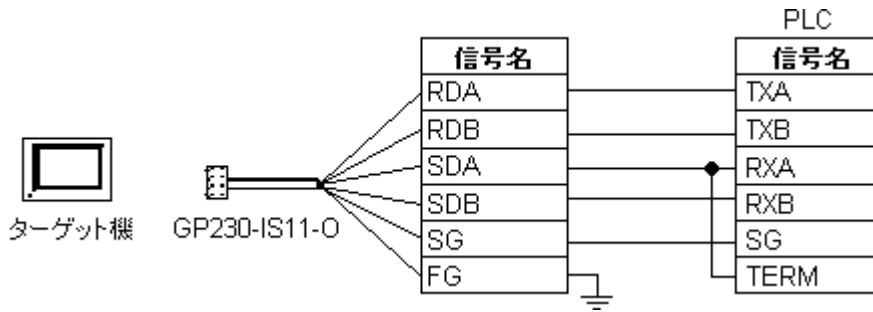
a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ(GP070-CN10-0)またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



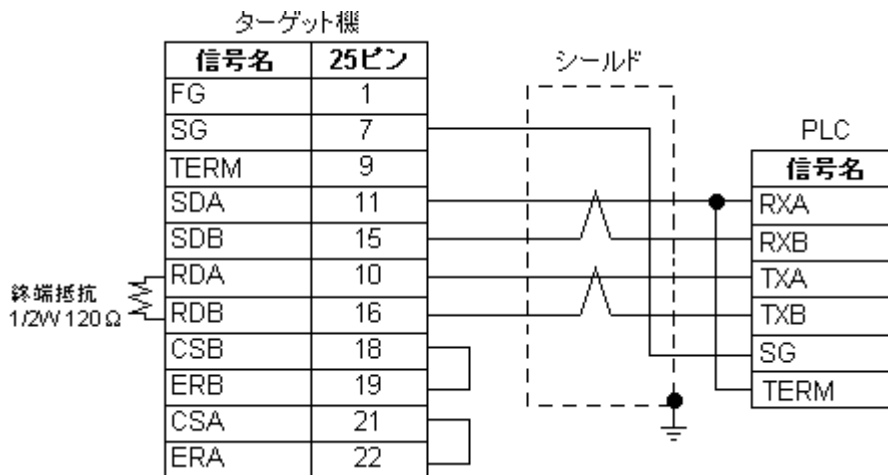
**MEMO**

- ・RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

b. (株)デジタル製RS-422ケーブル(GP230-IS11-0)を使用する場合



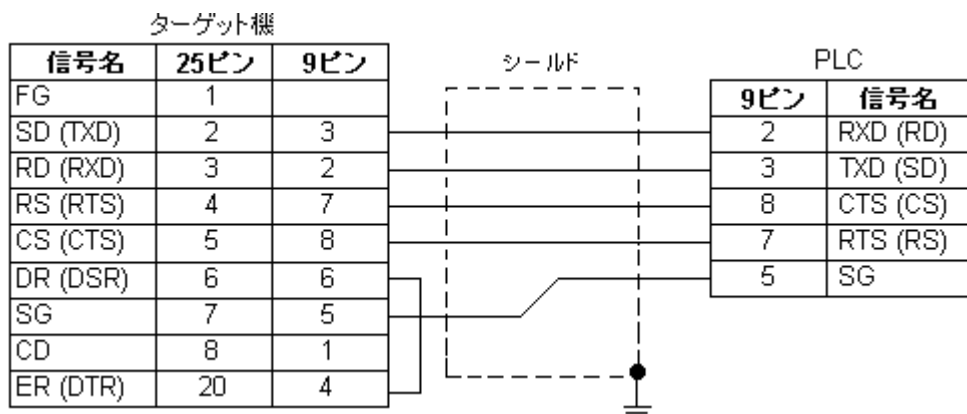
c. ケーブルを自作する場合



結線図10 RS-232C

ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

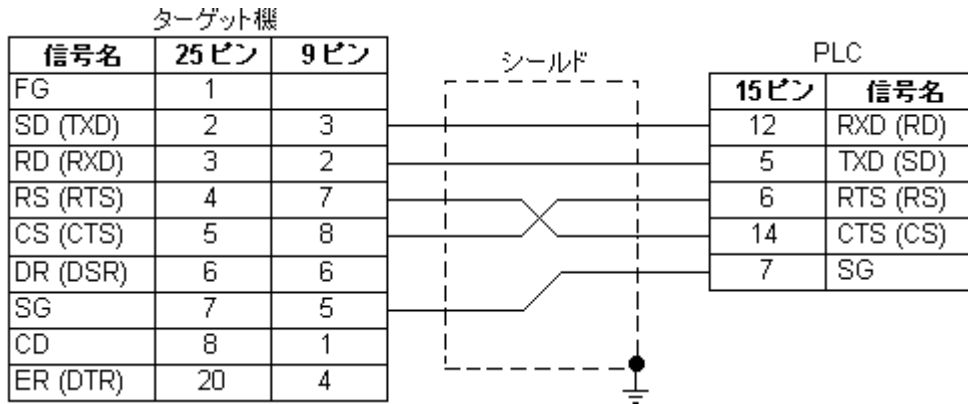
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP, PS-P, PC/AT(PL), PS-G	自作ケーブル	ケーブル長は15m以内にして ください。



結線図11 RS-232C

ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP, PS-P, PC/AT(PL), PS-G	自作ケーブル	ケーブル長は15m以内にして ください。



結線図12 RS-485

ターゲット機にあわせて下表に示すケーブルまたはアダプタを使用するか、ケーブルを自作してPLCとターゲット機を接続します。

ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内に してください。
	b (株)デジタル製 RS-422ケーブル GP230-IS11-0	
	c 自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a RS-232C/RS-422(485)変換器	

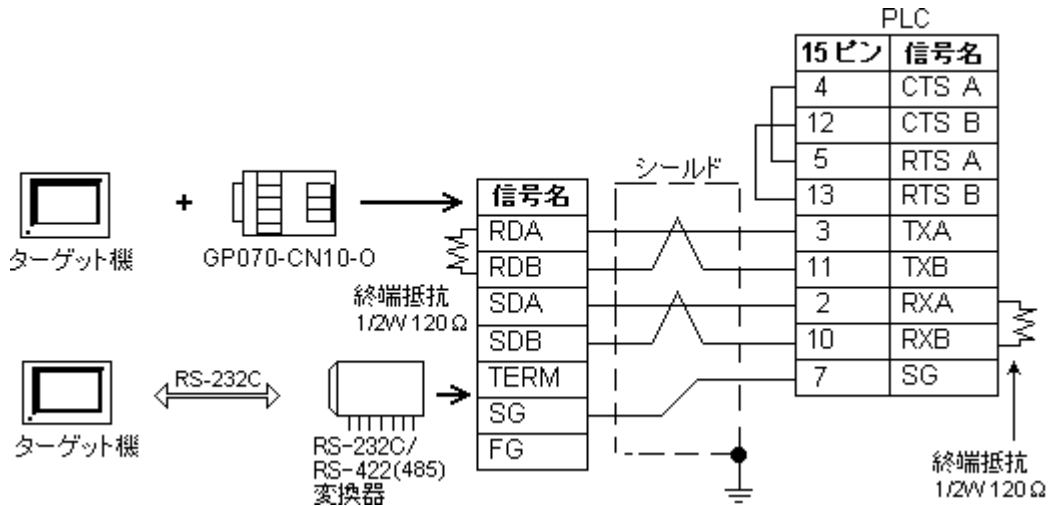
1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペアー括シールドケーブルを使用し、シールド線をPLC側に接地してください。



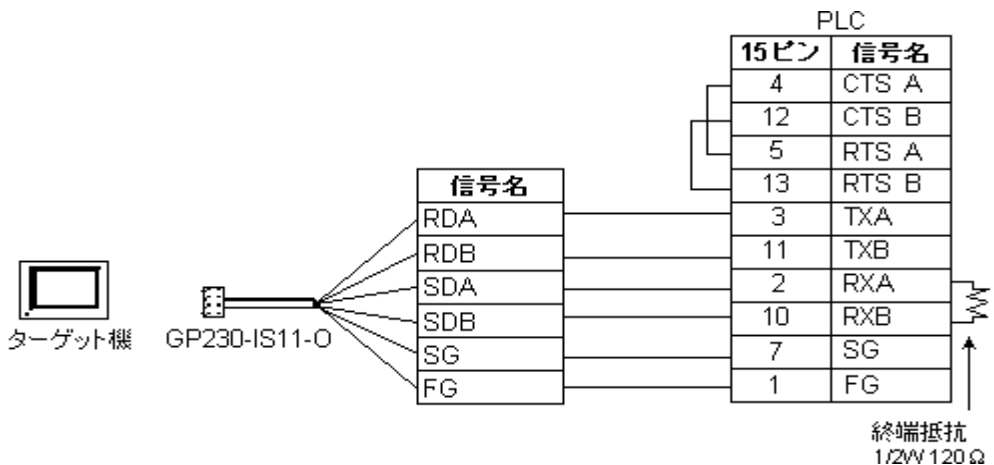
- a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



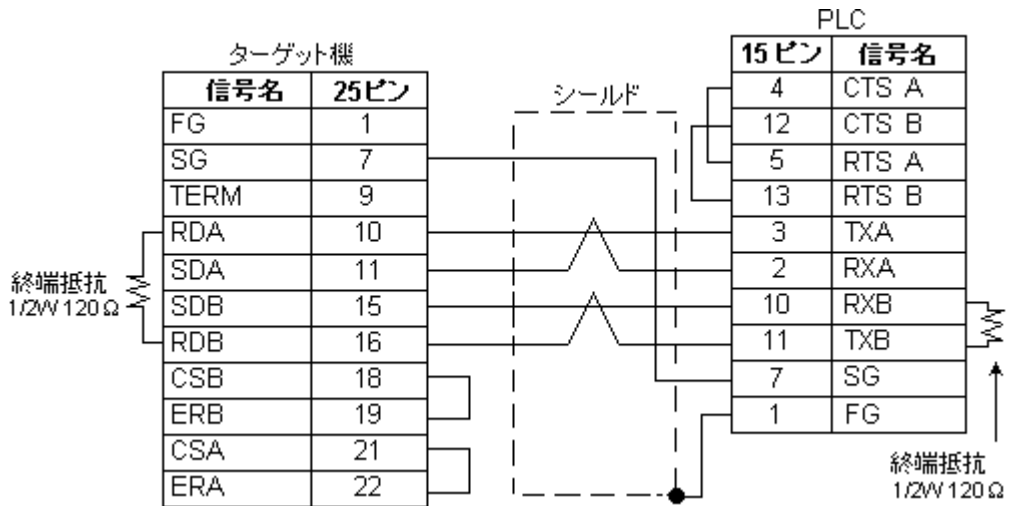
**MEMO**

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

- b. (株)デジタル製RS-422ケーブル(GP230-IS11-0)を使用する場合



c. ケーブルを自作する場合



結線図13 RS-485(1:n)

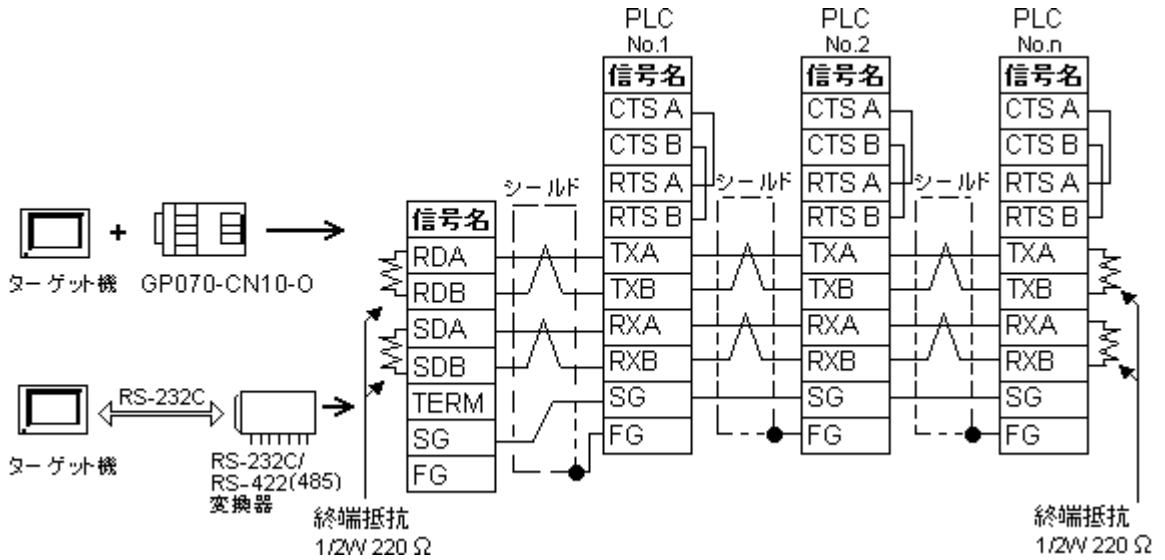
ターゲット機	使用可能ケーブル/アダプタ	備考
GP <sup>1</sup> , PS-P <sup>1</sup>	a   (株)デジタル製 RS-422コネクタ端子台変換アダプタ GP070-CN10-0	ケーブル長は500m以内にしてください。
	b   自作ケーブル	
PC/AT(PL), PS-G	a   RS-232C/RS-422(485)変換器	

1 COM1のみ接続できます。

**MEMO**

- ・ 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア括シールドケーブルを使用し、シールド線をPLC側に接地してください。
- ・ ターゲット機1台に対し、PLCを最高32台まで接続できます。

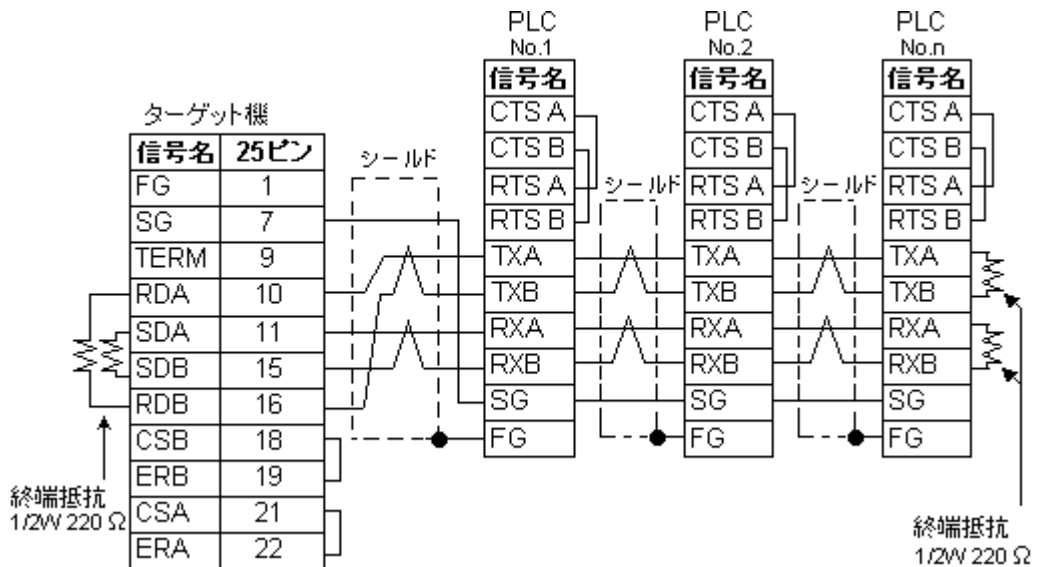
- a. (株)デジタル製RS-422コネクタ端子台変換アダプタ (GP070-CN10-0) またはRS-232C/RS-422(485)変換器を使用する場合



**MEMO**

- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器はRS-485側が端子台になっており、電源は通信ライン以外の外部から得る形状のものを使用してください。
- ・ RS-422(485)端子台の終端抵抗は変換器の仕様を確認のうえ取り付けてください。
- ・ RS-232C/RS-422(485)変換器とターゲット機間のRS-232C結線は、変換器の仕様により異なります。変換器の仕様を確認してください。

- b. ケーブルを自作する場合



### 3 使用可能デバイスアドレス

Pro-Designerでの設定時に入力可能なデバイスアドレスの範囲を示します。ただし、実際にサポートされているデバイスアドレスの範囲はPLCの機種によって異なりますので、お使いのPLCのマニュアルで確認してください。

**MEMO**

PROSEC Tシリーズ PLCに設定可能な文字列変数の最大長は64バイトです。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	16 bit	32 bit
入力リレー	X0000-X511F	XW000-XW511	L/H <sup>4</sup>	L/H <sup>4</sup>
出力リレー	Y0000-Y511F	YW000-YW511		
内部補助リレー	R0000-R999F	RW000-RW999		
特殊補助リレー	S0000-S255F	SW000-SW255		
リンクレジスタリレー <sup>1 2</sup>	Z0000-Z999F			
リンクレジスタ <sup>1 2</sup>	W00000-W2047F	W0000-W2047		
リンクリレー	L0000-L255F	LW000-LW255		
タイマ(接点)	T.000-T.999 <sup>3</sup>			
カウンタ(接点)	C.000-C.511 <sup>3</sup>			
タイマ(現在値)		T000-T999		
カウンタ(現在値)		C000-C511		
データメモリ	D00000-D8191F <sup>2</sup>	D0000-D8191		
ファイルレジスタ	F00000-F32767F <sup>2</sup>	F0000-F32767		

- 1 リンクレジスタリレービットアドレス(Z)とリンクレジスタワードアドレス(W)は同じメモリの場所を参照しています。
- 2 ビット書き込みを行うと、いったんターゲット機がPLCの該当するワードアドレスを読み込み、読み込んだワードアドレスにビットを立ててPLCに戻します。ターゲット機がPLCのデータを読み込んで返す間に、そのワードアドレスヘラダープログラムで書き込み処理を行うと、正しいデータが書き込めない場合があるのでご注意ください。
- 3 データの書き込みはできません。
- 4 16ビットデータおよび32ビットデータ格納時のデータの上下関係は以下のとおりです。

16ビットデータ

15	...	08	07	...	00
H(上位)			L(下位)		

32ビットデータ

15	.....	00
0	L(下位)	
1	H(上位)	

## 4 連続アドレスの最大データ数

連続アドレスの読み出し時の最大データ数およびギャップスパン（連続デバイスアドレスとして使用されるPLCデバイスアドレス間の最大ギャップサイズ）を示します。ブロック転送を利用される場合に参照してください。

### MEMO

- ・ データ通信を高速で行うには、パネル単位でデバイスアドレスが連続になるように変数のレイアウト設計を行ってください。
- ・ 以下の方法でデバイスを指定すると、デバイスの読み出しの回数が増えるため、データ通信速度が低下します。
  - ・ 連続アドレス最大データ数の範囲を超えている場合
  - ・ アドレスを分割して指定している場合
  - ・ デバイスの種類が異なる場合

デバイス	連続アドレス 最大データ数	ギャップスパン
内部補助リレー (R)	32 ワード	20 ワード
リンクレジスタリレー (Z)		
入力リレー (X, XW)		
出力リレー (Y, YW)		
内部補助リレー (RW)		
特殊補助リレー (S, SW)		
リンクレジスタ (W)		
リンクリレー (L, LW)		
データメモリ (D)		
ファイルレジスタ (F)		
タイマ (接点) (T)	32 ワード	13 ワード
カウンタ (接点) (C)		
タイマ (現在値) (T)		
カウンタ (現在値) (C)		
ファイルレジスタ (F)		

## 5 環境設定例

(株)デジタルが推奨するPLC側の通信設定と、それに対応するターゲット機側の通信設定を示します。参照 「7 [ドライバ設定](#)」、「8 [タイプ設定](#)」

### RS-232C接続の場合

		ターゲット機の設定		PLCの設定	
ドライバ設定	通信方式	RS-232C		-	
	制御方式	DTR(ER)/CTS		-	
	通信速度	9600bps <sup>1</sup>	伝送速度	9600bps <sup>1</sup>	
	通信リトライ	2		-	
	パリティビット	奇数	パリティビット	奇数	
	ストップビット	1ビット	ストップビット	1ビット	
	データ長	8ビット	データ長	8ビット	
	受信タイムアウト	10sec		-	
	送信ウェイト	0msec		-	
タイプ設定	ステーションNo.	1	ステーションNo.	1	

1 T2NのコンピュータリンクポートおよびT2EのCM232Eのオプションカードには、19200bpsの通信速度（ボーレート）を使用することができます。

### RS-485(1:1/1:n)接続の場合

		ターゲット機の設定		PLCの設定	
		GP, PS-P	PC/AT(PL), PS-G		
ドライバ設定	通信方式	RS-422(4線式)	RS-232C <sup>1</sup>	-	
	制御方式	None	DTR(ER)/CTS	-	
	通信速度	19200bps <sup>2</sup>	伝送速度	19200bps <sup>2</sup>	
	通信リトライ	2		-	
	パリティビット	奇数	パリティビット	奇数	
	ストップビット	1ビット	ストップビット	1ビット	
	データ長	8ビット	データ長	8ビット	
	受信タイムアウト	10sec		-	
	送信ウェイト	0msec		-	
タイプ設定	ステーションNo.	1	ステーションNo.	1	

1 ターゲット機がPC/AT(PL)またはPS-Gの場合、RS-422接続でもRS-232C/RS-422(485)変換器を使用してRS-232C通信を行います。したがって、通信方式は「RS-232C」を選択します。

2 T1またはT1SでCU111をご使用の場合は9600bpsでの通信となります。

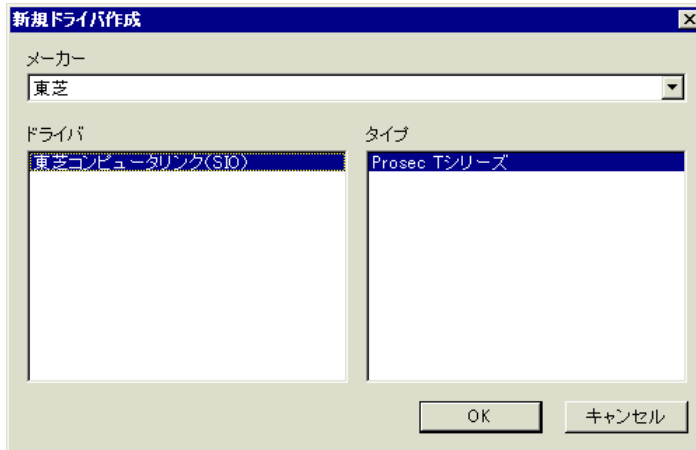
3 T2EでCM232Eをご使用の場合、またはT2Nでコンピュータリンクポートをご使用の場合は、19200bpsでの通信が可能になります。

## 6 接続機器設定

ターゲット機とPLC間の通信に使用するドライバとタイプはPLCの種類によって異なります。システム構成にあわせてドライバとタイプを選択します。

**MEMO**

[新規ドライバ作成] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



## 7 ドライバ設定

[ドライバ設定] ダイアログボックスで、ターゲット機とPLC間の通信方法の詳細を設定します。各プロパティの設定はPLC側の設定と一致していなければなりません。参照 「5 [環境設定例](#)」

### MEMO

[ドライバ設定] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。

### メーカー

PLCメーカーの名前が表示されます。このプロパティは読み取り専用です。

### ドライバ

ターゲット機とPLCとの接続に使われるシリアル通信の種類が表示されます。このプロパティは読み取り専用です。

### COMポート

PLCと接続させるターゲット機側のCOMポートを選択します。本ドライバでは「DTR(ER)/CTS」固定です。

### MEMO

ターゲット機がPS-Gの場合は「COM1」を選択してください。「COM2」では接続できません。

### 通信方式

「RS-232C」「RS-422(4線式)」のいずれかを選択します。

接続方法については「2 [結線図](#)」を参照してください。

### 制御方式

送受信データのオーバーフローを防ぐための通信制御方式を選択します。

### 通信速度

ターゲット機とPLC間でデータをやり取りする通信速度(1秒間にやり取りされるデータのビット数(bps))を選択します。



#### 通信リトライ

PLC通信エラーが発生した際に、ターゲット機がコマンドを再送信する回数を「0から255の整数」で入力します。

#### パリティビット

パリティチェックの有無、方法に「無し」「奇数」「偶数」のいずれかを選択します。

#### ストップビット

ストップビットの長さに「1」「2」のいずれかを選択します。

#### データ長

データをやり取りする場合のデータ長（ビット構成）に「7」「8」のいずれかを選択します。

#### 受信タイムアウト

PLCとの通信時に、ターゲット機が受信タイムアウトエラーになるまでの秒数を「1から127までの整数」で入力します。

#### 送信ウェイト

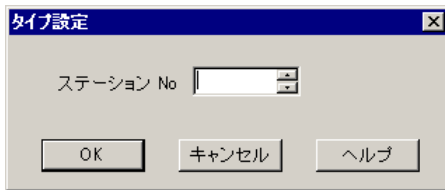
ターゲット機がパケットを受信してから、応答するまでの待機時間（ms）を設定します。

## 8 タイプ設定

[タイプ設定] ダイアログボックスで、ターゲット機とPLC間の通信方法に合わせてタイプの詳細を設定します。参照 「5 [環境設定例](#)」

**MEMO**

[タイプ設定] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



ステーションNo.

「1～32の整数 (Dec)」で入力します。

**MEMO**

ターゲット機1台に対し、PLCを最高32台まで接続できます。

## 9 デバイスアドレス設定

[ デバイスアドレス設定 ] ダイアログボックスで、外部変数にPLCのデバイスアドレスを割り当てます。参照 「3 [使用可能デバイスアドレス](#)」

### MEMO

[ デバイスアドレス設定 ] ダイアログボックスの表示方法についてはオンラインヘルプを参照してください。



### デバイス

PLCのデバイスをリストから選択します。

### アドレス

キーパッドを使ってアドレスを入力します。ビットアドレスがワードアドレスかによって、適切なフォーマットでの入力が可能になります。